

外国人特定技能2号合格の意義と特徴

早稲田大学 名誉教授 堀口健治
早稲田大学 招へい研究員 軍司聖詞

1 2022年4月日本初の合格者

19年特定技能が始まったので、5年すれば2号の試験が始まると思っていたが、そうではなかった。初の合格者は岐阜市のコンクリート圧送業・(株)コンクリートポンプ(従業員22人、うち外国人10人)の中国人オウヒさんである。1号になって1年5か月の合格である。10年に来日、技能実習や建設就労などで滞在し、20年11月から特定技能1号になった。そして21年1級技能士、22年1月建設キャリアアップシステム(CCUS)レベル3判定で22年4月に2号合格と認定されたのである。建設では、評価試験だけでなく、日本人も受ける既存の技能検定1級試験とCCUSを組み合わせた別の2号合格ルートを設定したからである。

建設と船舶・船用工業は19年から技能検定1級を設け、評価試験のみの農業等とは異なる仕組みを持っている。国家資格の技能検定は日本人も受験する難しい試験だが、これがあるおかげで、外国人のみが受験できる評価試験の合格者と日本人を含む技能検定試験の合格者とが同じレベルに位置づけられる。

第1表 2023年度2号農業技能測定試験結果

実施国	試験区分		受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
日本国内 (各都道府県)	耕種農業全般	初回	38	3	8
		2回目	169	23	14
	畜産農業全般	初回	19	9	47
		2回目	39	20	51
	合計	初回	57	12	21
		2回目	208	43	21

資料 全国農業会議所

注 初回2023年12月20～22日、2回目2024年2月19～21日実施。

農業等は、外国人は2号そして昇格という流れがあるが、日本人幹部は対応する国家資格はない。2号に相当するとされる日本農業技術検定2級は民間資格だし広く使われているわけではない。また技能検定の中に農業は入っていない。課題がありそうである。

2 2号の試験状況と合格事例

第1表によると農業は1号の最初の人が期限の5年以内に2号試験を受けられるように23年末初回の試験が行われた。2回目は2月で、3回目は24年5月27～30日とのことである。

日本の不熟練労働力受け入れは、技能実習制度を通じ技能と日本語を引き上げ、さらに特定技能1号でより専門能力とコミュニケーション力を磨くやり方である。2号に合格すれば家族呼び寄せができ、本人の在留期限は更新可能だ。年数が経てば永住ビザも申請可能である。

日本のこの階梯は、不熟練・低学歴で来る外国人にとり、単純労働の繰り返しで帰国する多くの国と決定的に異なる。2号合格が多くの業種で出たことで、「はしご」は画餅でな

く、昇格が可能なことが示された。そうした合格者を3月31日・日本農業新聞の「農村学教室」で紹介した。合格者は多様なので下記の3例も報告したい。

① 3名の合格者を出した鶏業・(株)福島エンヤ

2号受験を勧める規模の大きい畜産会社は結構ある。

日本語に力があり継続勤務を希望する1号従業員を後押ししている。大規模だと畜舎も多く管理職ポストがあるので、日本人幹部と同様に外国人も活躍できる場面が多い。

福島県玉川村に本社を置くが、複数の県に20を超える種卵生産や孵化場を有している。従業員42名、うち外国人はベトナム20人で全員特定技能である。技能実習生を当初は導入したが、3年間で技能を一通り学んだ段階で帰国するため、成果を生かせない。ために特定技能の採用を車田社長は進めた。面接に行き両親にも会っているので信頼感は強い。他方、日本人新卒者は応募が減り、中途採用の日本人に主力が移ったが転職も多く、徐々にベトナム人が増えてきた。他企業で技能実習を終え帰国していて、再度来日したい人を1号で受け入れている。

この中で運転免許証を教習所ですとった積極的な人に2号を勧めた。合格した女性グエン・チー・フォンさんは30歳、看護学校で3年間学んだが、農業の技能実習生で来日し、特定技能4年目で合格したことになる。途中でN3を取得した。夫は他企業で技術・人文知識・国際業務ビザで働いており、子供二人を養っているが、いずれ永住ビザを申請する考えである。他の合格者二人はともに29歳・高卒男性で、技能実習を含め6年弱での合格である。いずれも社内で結婚して夫婦で勤めているが、継続勤務を希望し、子供が生まれているので家族帯同で対応するとしている。

②千葉県旭市(株)太一興陽の中国女性・金香さん

中国からの雇用が減り、合格者の金さん・46歳はこの会社の最後の中国人である。大卒で日系企業に勤めていたが離婚もあり、収入がおおきい太一興陽に7年前就農した。出身が農家なので農業は苦にならない。技能実習、特定技能と経営者の石毛氏について技術を学び日本語もN2を目指す。運転免許の費用30数

万円は自己負担し、毎月の運転手当で回収する。農業に熱心なので、石毛氏は他経営の幹部や経営者も務まると考え、2号合格を機会に飛躍することを勧めている。

農場は5千坪・7棟の施設でキュウリ、トマト栽培だが、家族員3人と正職員の男性1人、23年から雇用した3人のタイ女性(短大を含む大卒)、さらに人が変わりながらも20数年前から採用している、日本人と結婚したタイ女性のパートが4人おり、労働力は十分である。なお3人の特定技能のタイ女性は、すでに付き合っている在日のタイの男性等がおり、5年後帰国して結婚やビジネスを興すことを考え、2号の受験は考えていない。

③茨城県結城市・(有)クロスファームの張玉紅さん

黒須社長の勧めで同じ42歳の夫と一緒に受験したが、張さんは合格し夫君は惜しくも不合格だった。次回を目指している。合格すれば長く勤務してくれると社長は期待している。

張さんは昨年まで栃木のいちご農家に実習生として雇われ、夫はその前にクロスファームで実習生として働いていたが、その後、露地40ha(堆肥販売業も兼ねる)を経営する今のクロスファームに二人して特定技能で勤めたいと希望してきた。

張さんは特定技能1号の半年で2号に合格したことになる。日本語学習に熱心で、中国に残す二人の高校生を呼び寄せ、永住ビザもいずれ申請したいとしている。

本農場は18年前に外国人を入れたが、最終的には中国人に絞るようになった。コロナ前までは現地に面接に行き、今はタブレットで選考している。家族員3人以外は11名の中国人で技能実習6名、特定技能5人の構成である。2号受験希望者がこれからも出るかどうかはまだ不明のようだ。

(ほりぐち けんじ)

(ぐんじ さとし)